

令和4年度瀬戸市子ども読書活動推進協議会 議事録

日時 令和4年10月5日(水) 午後2時～午後3時30分

場所 瀬戸市立図書館 2階 会議室

出席者

会長：磯村 玲子

委員：勝見 ひろみ、安田 著子、山田 真美、谷口 壘、此下 明雄、杉江 圭司、
山井 利明、田中 伸司、吉村 きみ

事務局：図書館専門員 幸村 弘美

欠席者：加藤 千美、白木 美香

議事内容

1 開会

2 あいさつ

○事務局

瀬戸市子ども読書活動推進協議会の会長は、設置要綱の規定により教育部長が務めることとなっている。主催者あいさつとして、教育部長から挨拶を申し上げる。

○会長

お忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。コロナ禍で対面での開催が3年ぶりとなり嬉しく思う。また、委員の方々には日ごろから子どもたちの読書活動に関しご尽力賜り心から感謝申し上げます。

子ども読書活動や、図書館の将来像についてご意見をいただく機会になればと思う。

3 委員紹介

○事務局

今回の協議会の委員については、設置要綱の第3に基づき、関係部署・関係部課及び関係機関から選任し、要綱別表に掲載している12名となっている。時間の関係上、席次をもって紹介に代えさせていただきます。

なお、本日は他の用務のため2人に委員が欠席となっている。

4 議事(議長-会長)

(1) 令和3年度図書館各講座・行事の開催結果について

事務局より資料「令和3年度図書館各講座・行事の開催結果」及び図書館 Facebook に基づき説明。

○会長

令和3年度図書館各講座・行事の開催結果について事務局よりご説明した。ご質問・ご意見・ご提案等があればお願いしたい。

○委員

今年度も同じように実施しているのか。

○事務局

イベントの内容は異なる部分があるが同様に実施している。

(2) 第3次計画推進のための取り組み進捗状況調査結果について

資料に基づき、それぞれの部署での計画の進捗状況を各委員の皆様から報告いただいた。

○委員（図書館長）

図書館の進捗状況について施策番号134 「高等学校との連携事業」として、ビブリオバトルを開催した。コロナ対策のため会場での開催ができなくなることも想定し、オンラインでの開催も視野に入れ準備をした。結果、会場開催及び、オンラインというハイブリッド式での開催ができた。会場来場者は33名だった。後日、You Tube での見逃し配信も行った。

一昨年までは新型コロナウイルス感染症防止のため全ての事業を中止にしてきたが、コロナ前には戻れないという認識のもとニューノーマル、新しい日常への対応ということでやれる方法を考えすべての事業を進めている。

今年度も10月30日にパーティセと3階マルチメディアルームにおいてビブリオバトルを開催する。特別審査員に本山中学校、瀬戸西高校出身の青山美智子さんを迎える。読書推進につなげていきたい。

○会長

高校生ビブリオバトルの話があったが、何か意見等あるか。

○委員（高等学校校長の代表）

図書館、大学コンソーシアムと連携し、高校生を招きビブリオバトルを開催している。市内の県立高校では、各校が読書週間に合わせてイベントを開催している。

5年前に瀬戸高校で始まった「高校図書館めぐり」には多くの人に足を運んでもらって

いる。現在は、瀬戸高校と瀬戸北総合高校が学校公開をしている。

各々の学校が図書委員会を中心に活動を行っている。図書館とのかかわりとしては高校生は勉強するためだけに図書館を訪れるのではなく、本に親しむという形で関わられたらよいと思う。

○委員（学校教育課長）

施策番号 141「図書館見学・訪問の実施」として、全小学校で2年生を対象に図書館見学を実施している。本の借り方、図書館の使い方を学んでいる。令和3年度実績は1056名だった。

施策番号 312「各施設での読み聞かせの実施」では、読み聞かせボランティアに参加してもらい、長根小学校では毎週金曜日、朝 10～15 分、全クラスに地域の方（葉っぱの会）が読み聞かせを行っている。

今後コミュニティ・スクールも市内全域で進み、このような環境がさらに充実するとよい。

施策番号 323「読書週間」催事・啓発活動の実施については、各学校は、読書週間に合わせて「読書まつり」を実施している。図書委員会を中心にビンゴゲーム、本の紹介等活動を通して読書に親しむ活動をしている。

また、ジブリパークがオープンするが、市内小学生には校外学習としてジブリの世界観に触れてもらい、11 月末までには小中特別支援学校にジブリの図書コーナーを設ける予定。

○委員（まちづくり協働課長）

図書館との連携により公民館内に図書を設置している。

市民活動団体は図書館ボランティアも含め 250 ほどあり、当課では活動する人の支援と行っている。

ビブリオバトルについては、当課所管の大学コンソーシアムせとの「新しい文化創造プロジェクト」事業で助成金を得て実施していただいている。

また、大学コンソーシアムせとの「大学生によるまちづくり活動応援助成金事業」では、大学生が市内の子どもたちに対し食育に関する事業を行った。口に入れた食べ物はどのような道を通るのか子どもに分かりやすく説明し参加の子どもに、こうしたことを伝える絵本を作成し配布した。

○委員（こども未来課長）

図書は子どもと親とのコミュニケーションツールの一つであり、子どもにとっても未知の世界を知るための重要な入口である。子ども未来課の所管には交通児童遊園、ファミリー交流館、やすらぎ会館プレイルーム、市役所 2 階子ども未来課前プレイルームがあり、子どもと保護者が触れ合う場所を用意している。

さて、進捗状況ではコロナ禍ということで実施できないこともあった。施策番号 152「地域施設での読み聞かせ等実施」については人気の催しであり、不定期ではあるが実施した。施策番号 153「放課後児童クラブ等での読書活動の推進」では児童クラブにも本を置き、子どもたちが本に触れ合う環境を整えている。

○事務局

保育課委員の代わりに事務局からご報告させていただく。コロナ禍のため、令和3年度は園外の他者と関わるものについては実施ができなかったが、園内での保育での読み聞かせは毎日実施した。施策番号 141「図書館見学・訪問の実施」では、図書館近隣の保育園であれば徒歩での来館が可能だが、他園では交通手段がないことが課題である。

○委員（健康課長）

施策番号 111「ブックスタート事業の実施」では図書館と共同実施である。新型コロナウイルス感染防止のためボランティアによる本の配布は見合わせてきた。健康相談に入る保健師が、個別相談の際にファーストブック等の配布を行っている。配布対象者 95.7%の方に配布できた。

ファーストブックを母子に渡すことは大変喜んでいただいております。今後のニューノーマルの中、コロナ感染対策からこれまでどおりの読み聞かせをどのように実施するかが課題である。

○事務局

幼稚園代表の委員の代わりに事務局から報告させていただく。市内7園の幼稚園があるが、全ての幼稚園で毎日読み聞かせを実施している。

絵本の大切さは常々職員や保護者へは伝えるとともに、スマホの危険性を発信している。絵本の読み聞かせは、情緒的に大切であることが分かっている。

○委員（図書館ボランティアの代表）

東山小学校、おはなっしーで読み聞かせボランティアをしている。図書館内での未就園児を対象の読み聞かせは、コロナ禍以降スタートできていない。いつか再開したい気持ちである。

先日の図書館のイベント時には3年ぶりに「こわいおはなし会」を実施した。コロナ禍であってもできることから準備し開催できたことは良かった。

東山小学校での読み聞かせは、現在は学期ごとに1回入っている。

小学3年生はコロナ禍で入学し、大きな声を出さない、友だちとの接触を少なくする等制限の中での学校生活を送っている。そのような子どもの気持ち等を受け止めて読み聞かせを続けたい。また、この3年間で学校でもタブレットを持つ等、子どもたちを取り巻く環境が変わっているが、おはなし会をすると、子どもたちの本を見つめる眼差し

は、子どもはおはなしが好きであると実感し勇気をもらう。今後もスキルアップに努めたい。

○委員（PTA 連絡協議会母親代表の代表）

家庭での読書については、ブックスタートで絵本をもらって読み聞かせをした。すべての子どもが絵本を好きだと思っていたが、決してそうではない。しかし、子どもたちそれぞれが成長し、家でも好き好きに図鑑を見たり、小説を読んだりしている。それぞれの学校等の環境の中でも本と出会い、人と出会い、その中で本に興味を持ち好きになっているということを感じている。

○委員（高等学校校長の代表）

子どもたちは、小学生の時には比較的学校図書室に通う児童が多いが、中学生になると部活動が忙しく図書室通いから遠のき、高校生になるとさらに図書室に足を運ぶ生徒は少なくなる。高校生は月に1冊も読まないという生徒もいる。教科の授業の中で積極的に図書室を使用する教員もいる。今後、高校生に読書習慣をどのようにつけるかが継続的な課題である。

○会長

みなさんから意見をいただいたが、図書館長、委員の投げかけについてどのように思うか。

○委員（図書館長）

高校生はテスト前になると、図書館へテスト勉強のために足を運んでくれる。図書館としても多くの本に触れてもらいたいため、学習場所となる集会室の入り口前に「ヤングアダルトコーナー」を設けて高校生が興味を持ちそうな本を配架している。高校生が来館した機会を逃さずに図書館の良さを紹介できたらと工夫をしている。

高校生の読書離れは全国共通の課題である。しかし、図書館という場所を知っていると大人になってからも必ず戻ってくるので、あきらめずに続けていきたい。

○委員（学校教育課長）

品野中学校は、生徒が本に触れ合う機会を増やすため、生徒玄関昇降口に長机を並べ、本を置いている。子どもたちは読みたい本を自由に持っていき、読み終わったらそこに戻すという取り組みをしている。

（3） 瀬戸市立図書館長寿命化改修基本計画（案）について

瀬戸市立図書館長寿命化改修基本計画（案）について図書館長から説明した。

○会長

ただいまの説明に対し、ご意見、ご質問等はあるか。

○委員

本を探す図書館から、本に出合える図書館というのはとても良い。本は、子どもたちにとって、新しい未来の入り口であり親子のコミュニケーションツールの一つである。モノであって、モノではないと思う。

これからの図書館は「知識」と出合える場所であると思う。知的好奇心をそそり、興味がある、おもしろそうと感じる人、図書館を前向きにとらえてくれる人が増えると思う。実現すれば大人も子どもも楽しいと思う。「知識」と出合える場所と考えてくれたことは、大人にとっても子どもにとっても良いと思った。

○委員

PTA 代表として参加させてもらっているので、8月の教育懇談会での図書館に関するところの報告をさせてもらおう。

- ・親子で学ぶ機会があったり、遊んだりする機会を増やしたらよいと思う。図書館でイベント等もあったらと思う。
- ・図書館をもっと利用できるような、利用されやすい環境づくりをしてほしい。
- ・市の施設をテスト前の期間、勉強ができる場所として自由に使用できるよう開放していただきたい（パーティ・瀬戸蔵、文化センターなど）
- ・学校図書館で本を借りるだけでなく、勉強ができる環境をつくってほしい。

○会長

PTA からの貴重な意見に感謝する。
これに対してご意見をお願いします。

○委員

勉強ができる場所という点では現在、パーティ交流広場では机を 10 台並べ、一人 4 時間の時間制限を設けている。残念な状況ではあるが、順次対応していきたい。

コロナ禍でのこの状況が続き利用者が減少していることも事実である。

まちづくり協働課が所管している「地域交流センター」でも学習している姿は見かけ
る。

○委員

長寿命化計画はこのまま進めていってもらいたい。図書館は山の上という立地であるが、説明の中のエレベーターはどのようなものか。

○委員（図書館長）

図書館2階に上がるための外付けエレベーターの設置を計画している。2階のトイレの隣にエレベーターを設置できるのではないかと考えている。

○委員

全国的に各自治体における図書館整備の潮流があり、岡崎市、一宮市、岐阜市メディアコスモス等があるが、本市においては地域図書館として学校内にあり、全国的にも珍しいことから、それを強みにしたら良いと思う。

計画はそのようなことで良いと思う。

併せて、不登校の児童生徒のサードプレイスとして瀬戸ならではの図書館のあり方も検討しても良いのではないかと。にじの丘学園の大階段で児童生徒が読書する姿は素敵だと思う。

計画策定にあたり、対象者すべての意見を聞き実現することは難しいため、第6次瀬戸市総合計画で示しているような世代をしぼって意見聴取するなどしても良いかと思う。

○委員

いろいろなことができるようになる図書館ということでリニューアルを楽しみにしている。

蔵書数はタイトになるのか。

○委員（図書館長）

蔵書冊数を増やすことは面積から厳しいが、減らすことは考えていない。

利活用計画の中で、機能を分担するとある。本館、情報ライブラリー、地域図書館に本を分冊し図書館サービスを充実していく。

現在の配架は背表紙を見て本を取り出している。表紙を見せ、配架に余裕を持たせる方が本に出合える。蔵書冊数を減らすという意味ではない。

○委員

PTAとして、関わる子どもたちに本の良さを伝えていけるようになればと思う。

○会長

図書館の長寿命化改修基本計画（案）については、今後予算をお願いしながら検討を進めていく。子どもたちの読書推進によって、子どもたちの将来がますます良くなるよう今後も引き続きお願いする。

○事務局

推進会議の開催につきましては、本年度、本会議のみである。委員の皆様におかれましては、それぞれの部署、お立場で子どもたちの読書環境が整うようご尽力願います。また、各部署、連絡を取り合って連携して事業が行っていただけるよう、図書館が事務局としてサポートしていく。

5 閉会